

令和3年度第1回仙台市GIGAスクール推進協議会 議事録(要旨)

1. 日時：

令和3年5月25日（火）10:30～12:05

2. 場所：

仙台市役所上杉分庁舎12階 仙台市教育局第1会議室

3. 委員：

安藤 明伸 委員，稲垣 忠 委員，大江田 真理 委員，木村 ひろみ 委員，工藤 哲 委員，佐藤 真奈 委員，（欠席）鈴木 一生 委員，田中 充 委員，堀田 龍也 委員（五十音順，全9名中8名出席）

4. 事務局：

福田教育長，金子副教育長，鎌田次長，郷家学校教育部長，寺田学校教育部参事，本郷教育指導課長，高橋教育指導課主幹兼教育課程係長，五十嵐（秀）仙台市教育センター主幹，春日川高校教育課長，勢藤生涯学習課主幹，大友教育指導課情報化推進係長，安部教育指導課主任指導主事，太宰教育指導課主任指導主事，新妻教育指導課指導主事，横山教育指導課主査

5. 傍聴者：

・1名

6. 内容：

(1)委嘱状確認

(2)教育長挨拶

(3)会長選出

(4)会長挨拶

(5)代理者選出

(6)報告事項

①GIGAスクール構想の推進状況について

(7)協議事項

①GIGAスクール構想の令和3年度の取組及び今後の検討の方向性について

②部会の委員構成について

③部会の令和3年度の取組内容について

(8)その他・意見交換

7. 議事要旨

(1)委嘱状確認

(2)教育長挨拶

・委員をお引き受けいただき感謝する。

・本市においても3月末までに小中学校に一人一台端末が入り，今年度いよいよ

その活用が始まる。

- ・ 今般整備される情報端末を上手に活用して、一人ひとりに合った学び、子供たちが協働しながらの学び、そして、自ら課題を見つけて解決に向けて取り組む探究的な学びを一体的に充実させる
- ・ 委員の皆様には忌憚のないご意見を賜り、協議会での議論を児童生徒の学びの質の向上につなげてまいりたい。

(3) 会長選出

- ・ 互選により堀田委員が選出された。

(4) 会長挨拶

- ・ 新学習指導要領において、学び続けることのできる児童生徒の育成を求めている。人生100年時代、人口減少局面で人材流動性の高い時代にあって、AIを理解し、人間こそがすべき仕事に年齢や体力に応じて対応していくという中で、どういう資質能力を育てるかということ盛込まれたもの。
- ・ 学び方を学ばせるのがこれからの学校教育の役割となる。いつまでも先生がそばにいるわけではないので、自分の興味関心のあることを自分で調べて自分のペースでやり遂げることが必要になる。それには従来の学習環境では足りないため、一人一台の情報端末や高速ネットワーク、クラウドを使うということになりGIGAスクール構想ができた。そのため、今までの学習の延長に、学習用コンピュータをどう使おうかという話があるわけではなく、このことは文科科学大臣も何度もメッセージを出している。
- ・ この趣旨が学校現場に届ききっていない現実がある。それは学校現場が忙しいためでもあり、本協議会を通して教育委員会に頑張ってもらい、現場に本質のメッセージを届けることにつながればと考える。

(5) 代理者選出

- ・ 堀田会長の指名により稲垣委員が選出された。

(6) 報告事項

① GIGAスクール構想の推進状況について

- ・ 事務局より資料2-2に基づいて報告した。

(質疑)

稲垣委員：無線LANアクセスポイントを普通教室＋ α に設置とのことであるが、 α とは校内全域か。また、実際の運用状況は解るか。

事務局（大友教育指導課情報化推進係長（以下大友係長））：まず、アクセスポイントは予算の制限もあり特別教室全てに配備できてはいない。ただし、移動式として、必要に応じて学校が動かせるようにしている。

稲垣委員：仙台市立学校で体育館に無い等の話も聞いているが、仙台市として体育館に無いのはどうなのかと思う。

堀田委員：文科省においても体育館への整備が推奨されているが、今のところ

ろ仙台市ではそうってはいないということか。

安藤委員：移動式の配備について、市として、それをよしとしているか。

事務局（大友係長）：予算が認められれば配置していく。

堀田委員：教育局としては校内全域への配備が必要としているが、財政局が認めていないということか。

安藤委員：小学校が各教科で情報に取り組む一方、中学校では技術のみでよいというきらいがあり、小学校→中学校の円滑な校種接続へ配慮が必要。

もう1点、中学校の新学習指導要領でプログラミングの領域が増える一方、十分な教材が無い学校があるように見えるが、状況等把握しているところを教えてください。

事務局（大友係長）：把握するところから進める。

安藤委員：ぜひよろしく願います。

田中委員：高校の1人1台配備はどうか。高校は現状で1学年分のみ配置となっているが、小中で使っているのに高校に上がると端末が無い、となるのは難しい。特に本校（仙台青陵中等教育学校）では前期課程で端末利用に慣れているのでノート感覚で使われているところ、後期課程に上がると3人に1台分しかなく、利用が途切れてしまう。県立高校はBYODモデル校を選定する流れで、保護者負担で配備を進めるようであるが、仙台市もそれに合わせるのか、1人1台配備を市予算で進めるのか。また、教員用端末について、普通教室分の配備であるが、高校では12教科あるため足りない。教員用端末は今後配備されるのか、教員用端末もBYODとなるのか。

事務局（大友係長）：高校の残り2学年分の端末配備をどうするのかは今後の課題と認識している。県のBYOD対応を確認しながら進める。また、教員用端末については、校務用PCでもGoogleアカウントが利用できるため、教材作成はそちらで対応し、教室で使うときはGIGAスクール端末と使い分ける想定。

田中委員：1つの教室を2展開・3展開する場合もあり、教室に1台では足りない。

堀田委員：地方交付税交付金では、校務用端末とは別に、授業用端末も教員1人1台分措置があるはず。

堀田委員：高校の端末配備について、県はBYODの方針を出したけれども、市はどうするかも含めてまだ出していないということか。市立高校はいくつあるか？

事務局（郷家学校教育部長（以下郷家部長））：高校4つと中等教育学校1つ。

堀田委員：検討に当たって、他自治体の状況は既に文科省のHPに多くが出ており、今から県の状況を確認していくのはちょっと手遅れ感がある。対応

で県立高校に人が流れるということもあり、よろしく願います。

(7)協議事項

①GIGAスクール構想の令和3年度の取組及び今後の検討の方向性について

・事務局より資料2-2に基づいて説明した。

(質疑)

工藤委員：ICTを活用した授業が増える中で、整備されてきた端末のOSはWindows, Mac, Androidが混在しており、いずれどれでも共通で使えるWebアプリでないといけなくなるものと考えている。

工藤委員：コントロールするようなソフトがないため、数台程度ならば教員が見取りで指導できるが、35台となると難しくなるため、そのような機能のあるソフトがあるとよい。その他、デジタル教材についても検証を進めてほしい。本校も協力する。コントロールソフトがあれば、例えば不登校児童生徒でその家族もICTに詳しくない場合でも教員がオンラインで児童生徒を支援できる。

事務局（大友係長）：ご意見を参考に進める。

稲垣委員：無償試用のスケジュール等教えてほしい。推進2021から令和3年度の取組への落とし込み・対応がわかりにくくなっている。

事務局（大友係長）：検討する。

事務局（郷家部長）：数校で試用して予算要求へ持っていく。

稲垣委員：どの学校で何を試用している、等教えてもらえないと意見を出しにくい。

堀田委員：希望校に自由にやらせるのが勝手に進んでいってよい。市教委裁量で、どんどんよしとするのが今日的な風潮。全部市が検証するのは土台無理。ただし、どこが何をやっているかの可視化は必要。全国的にGIGAスクール構想で入った端末は3OSであるが、いずれもクラウド利用が前提となる。

事務局（大友係長）：まずネットワーク帯域は、文科省からも示された、同時利用率を考慮してビデオ通話のできる1人当たり2Mbpsで整備している。今後は、利用状況を測りながら増強を検討する。

堀田委員：ここでポイントなのが、誰が測るのか、測った結果は現場でも共有できるのか、ということ。判らないままだと現場は使うのを諦めてしまう。

事務局（大友係長）：教育指導課と回線事業者とで測る。結果の周知の仕方については検討する。

堀田委員：クラウドの利用状況は現状でも確認できるはずなので、機能面というよりは運用面の話になってくるが、例えばGIGAスクール推進室等、

専任の組織を作ったりしないと手が回らないのではないかと？

事務局（郷家部長）：教育指導課に、令和2年7月に人員増強を行ったところ。

大江田委員：ある学校ではZOOMで入学式をやったりするところもあると聞いている。海外のALTの先生と話せる等の利点もあるので、セキュリティの問題もあるが、市立高校でも使えるようにしてほしい。

事務局（大友係長）：ZOOMやGoogle Meet等のビデオ会議システムは現状でも利用は可能。行う場合は学校で顔の映り込み等個人情報への配慮や同意を得ながら進める。

稲垣委員：個人情報に関して、保護者同意を各校で取っているかと思うが、学校とは別に、市としてのベースラインがあるはず。そのような理解でよいか？

事務局（大友委員）：国の例示を参考に、市教委から学校へひな形を示している。

堀田委員：それは市のHPに公開されているか？見当たらないが。

事務局（大友委員）：現状では学校にのみ出しており、外部公開はしていない。

堀田委員：そのようなものもどんどん出していった方がよい。

事務局（郷家部長）：学校で内容を定めた際に、学校のHPに載せている。

堀田委員：学校ごとではなく、市教委全体としての部分を出して行ってほしい。教育センターのGIGAスクール関連の研修内容も外から閲覧する分には解らないし、もったいない。

田中委員：校務用PCにカメラがなく、GIGAスクール端末で初めてビデオ会議を行うような状況。そのGIGAスクール端末も触り始めたばかり。県立高校にはプロジェクターがあるが青陵中等教育学校にはない。大型提示装置（テレビ）はあるが、wifi機能を持たないため有線でつなぐ必要があり使いづらい。市教委が整備するものと学校が準備しなければならないものの整理がこれまでなかなかついていなかったと考えるが、先ほど堀田委員が仰ったように、GIGAのプロジェクトチームがあってもよいのかもしれない。

堀田委員：GIGAスクールに関しては、これだけの予算を投じたからにはうまく使われないと全国的に大変なことになる。その意味でどう使われるかが見られる。市教委が恐らく苦勞しているのに現場にその声が届いていないのは非常にしんどい。

②部会の委員構成について

- ・教育の情報推進部会及び家庭の情報モラル推進部会それぞれの事務局より

資料3-1及び3-2に基づき説明した。

(質疑)

堀田委員：学校のモラルは教育部会でやる？不可分と思われるので、うまく融通を効かせてご配慮願いたい。

安藤委員：モラルという表現だが、セキュリティもぜひ盛り込んでほしい。日常的な対応，例えばフィッシング対策やパスワード管理等。

③部会の令和3年度の実施内容について

・教育の情報推進部会及び家庭の情報モラル推進部会それぞれの事務局より資料3-1及び3-2に基づき説明した。

(質疑)

堀田委員：教育の情報推進部会の実施内容が総花的に見えるので各学校と内容をよく調整しながら進めてほしい。また，成果は本協議会での報告だけでなく広く発信してほしい。

堀田委員：HPで実施を出す等するとよいが，どこのHPに出すか？教育センターが妥当か？家庭の情報モラル推進部会も，市民に広く知ってもらうためにHPに載せるのもよい。

(8)その他・意見交換

佐藤委員：不登校・病気の児童生徒への支援について，既に行っていると読めるが，詳しく教えてほしい。

事務局（郷家部長）：自宅引きこもりの児童生徒への支援は，デジタルドリルを提供し，学校で学習履歴を確認し，学校からコメントできるソフトを入れている。令和3年度も継続したいと考えている。病気の児童生徒への支援は，入院中に病室と教室とをオンラインでつないで，学校の授業を病室で確認できる実施を行っている。今後は不登校の児童生徒にも同様のweb会議システムを使って学校の授業を自宅でも見るようなことができないか検討中。

佐藤委員：事例はどの程度あるか。

事務局（郷家部長）：令和2年度は，病院は2件だったと記憶する。不登校児童生徒は10数人と記憶する。

堀田委員：個人情報とはともかく，そのような取り組みも公表されているとよいと思う。